



荒金大琳君の書展の開催にあたって

九州の快男児、荒金大琳君が今度たくさんの臨書作品と愛妻節子（文月菜々子）さんの詩を素材とした近代詩文書作品の新作個展を開催するということなので一言お祝いの言葉を書きたいと思います。

大琳君は若冠十三歳にして、九州書壇の大御所首藤春草先生のもとに入門。大東文化大学中国文学科に入学し、私の高弟佐々木寒湖先生に師事。卒業後郷里大分県に帰って主に高等学校で教壇に立って書教育を実践する傍ら、書の勉強に励み、私の門をたたきました。二十六歳にして日展入選、爾来通算八回の入選を数え、創玄展では二十五歳で公募を卒業、三十四歳でグランプリを受賞、一般部審査委員に昇格、毎日展では毎日賞を受賞、公募卒業後難関の会員賞を受賞、その後当番審査員二回就任と順調にエリートコースを邁進中です。

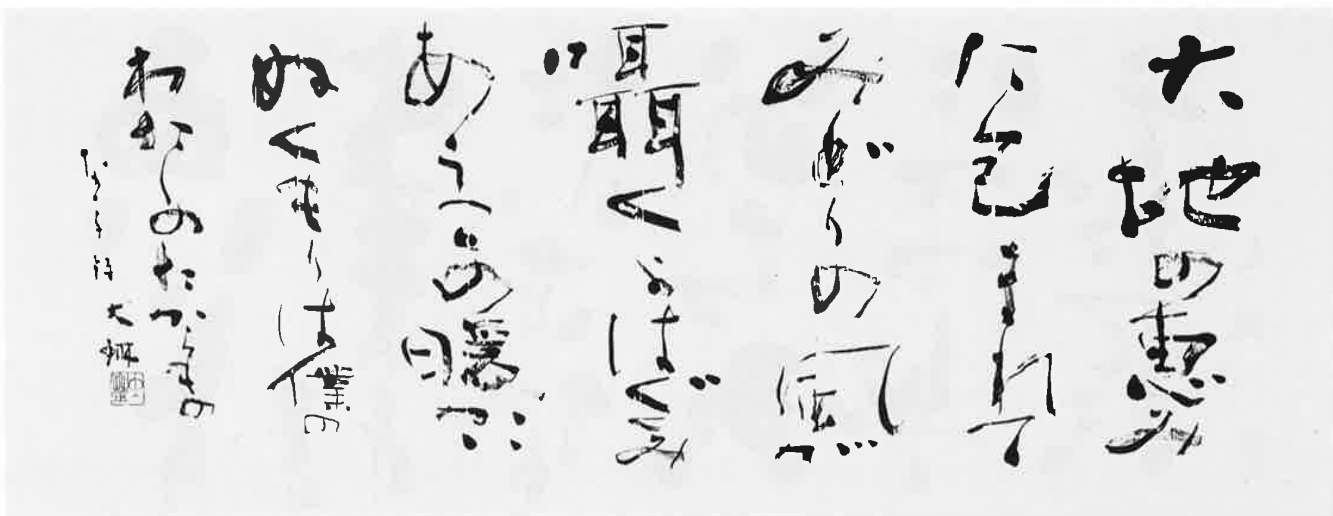
昭和六十二年、四十歳の時から別府大学の講師、そして今年の春から助教授となり、作家活動と並行して書の学問的探求に力を注ぎ相ついで論文を発表し、作家としても大学の教官としても前途有意な書家として期待するもの極めて大であります。

大琳君は家庭にあつては四人の子供さんのよき父親として、また節子さんも主婦・母親業と書の勉強・指導にまた詩作にも八面六臂の活躍、さらに内助の功を発揮して大琳君が安心して書の道一筋に進める環境を整えておられることは本当に幸せなことです。

家族また門人・教え子の絶大なる支援のもと健康に留意して、将来九州書壇を背負って立つような息の長い作家に成長して欲しいものと希っています。

平成四年九月十八日

文化勲章受章  
社団法人創玄書道会理事長  
金子鷗亭



第24回日展（1992） 平和の園⑨（79×182）

H4年 1992年 45才

大地の恵みに包まれてみどりの風が囁くよ  
はぐくみあうこの暖かいぬくもりは  
僕のわたしのたからもの